

5年生から始まります!

公立小学校で「外国語活動」スタート!

第1回:なぜ外国語活動が行われるんですか?

今年4月から全国の公立小学校で「外国語活動」が完全実施となります。「塾に通わせた方がいいの?」「自宅でどう教えればいいの?」などなど、不安になっているママも多いのでは?そこで外国語活動とはどんな学習なのか、宮城教育大学で英語教育を指導する先生方に3回にわたって解説いただきます。第1回目は、外国語活動が行われる経緯を中心にお話を伺いました。

そもそも「外国語活動」ってなあに?

ままばれ編集部(以下M):まず初めに「外国語活動」とは何なのでしょう。板垣教授:ここで指す外国語は主に英語が中心になります。中学校で外国語の基礎を学ぶ前に、まずは小学校で外国語に慣れ親しみましょう、というのが「外国語活動」です。小学校では「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませ

がら、コミュニケーション能力の素地を養う」(*)。これが学習目標です。外国語活動の対象となる学年は公立小学校5・6年生。外国語に慣れ親しむということなので、中学校の英語授業とは異なる学習内容となっています。ですから小学校では英語の読み、書きの学習はありません。鈴木先生:平成14年から全国の小学校の「総合的な学習の時間」の中で英会話等の英語活動が可能になりました。そこで公立小学校の英語学習の取り組み方や時間にバラ付きがでてきてしまったんです。ある学校では10時間勉強しました、もう一つの学校では



30時間学習しました、となりますと、その子どもたちが中学校に進学した際、スタートラインがそろわなくなってしまうですね。ですから「外国語活動」という授業時間を必修として設け、足並みをそろえると同時に、小学校と中学校の英語学習をうまく接続しましょう、という理由があります。

(※)「小学校学習指導要領解説(外国語活動編)」より(文部科学省 平成20年6月)

日本人の英語力ってどうなの?

M:なぜ今年から外国語活動がスタートすることになったのでしょうか?板垣教授:小学校の英語教育の導入については20年ほど検討が重ねられてきた経緯があります。議論が本格化し始めたのは平成14年頃からで、文部科学省の中央教育審議会という機関に外国語専門部会が発足し、その中で外国語教育の改善が提言されました。さらに議論が進められ、平成20年に外国語活動の必修化が決定し、今年4月から完全実施するということになりました。台湾や韓国などではすでに小学校で英語を学習することが必修になっています。そのことも後押しする要因になっているのではないのでしょうか。つまり「待ったなし」の状態になったのではないかと思いますね。

小学校と中学校では学習内容が、どう違うの?

M:外国語活動の目的とは?板垣教授:もちろんさまざまな目的がありますが、外国語を通じて「コミュニケーション能力の素地」を養うというのが基本にありますね。そしてこれは私個人の見解になりますが、世界的に英語力が上がっている中、日本人の英語力はまだ足りないのが現状です。世界では複数の言語を話せるという人々が当たり前になってきています。ある文献によると世界では約15億人が英語を共通語として使用していると言われています。ですが、英語を母語としている人々(約3.5億人)は、実はそれほど多くないんですよ。つまり英語を第二言語/外国語として使用している人が多いということです(約11.5億人)。日本の大学生の英語レベルも低下し



てきていると教壇に立っていて感じますね。エイドリアン先生:中学校の英語の授業ではいきなりBe動詞など文法の説明から入ってしまうのでどうしても「英語ざらい」になってしまいます。ですから小学校の時に「英語が楽しい」「英語ができるかもしれない」ということを体験的に覚えておけば、中学校で「もっと勉強したい!」という気持ちが生まれると思います。そういったことも外国語活動の目的になっていると思います。



第2回:外国語活動はどんなことを勉強するの?

今年4月から全国の公立小学校で「外国語活動」が完全実施となります。「塾に通わせた方がいいの?」「自宅でどう教えればいいの?」などなど、不安になっているママも多いのでは?そこで外国語活動とはどんな学習なのか、宮城教育大学で英語教育を指導する先生方に3回にわたって解説いただきます。第2回目は、外国語活動の学習内容を中心にお話を伺いました。

小学校1年生からじゃないの?

ままばれ編集部(以下M):なぜ小学校5年生からの実施になったのでしょうか?板垣教授:小学校3年生からスタートするのか、5年生から学習を始めるのか、専門家の間ではすいぶん議論されたようです。まず外国語を学ぶ以前に、日本語能力がしっかりしていなければなりませんよ。日本語を土台に思考することができる年齢を考えますと、やはり3年生より5年生の方が適切

だったのではと考えます。また、英語を教える先生方の指導体制の確立という観点でも3年生より5年生の方が現実的だったのではないのでしょうか。M:「外国語活動」はどんな学習内容になりますか?鈴木先生:前回、板垣教授がお話した学習指導要領の目標に合致しています。もう一度、学習指導要領(*)の外国語活動についての目標をお話すると、小学校では「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図

り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」。このように書かれています。ですから、ポイントが2つ。まず1つ目が「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するよう活動」。2つ目が「日本と外国の言語や文化について体験的に理解を深める活動」。この2つを学んでいくこととなります。つまり、英語のスキルを育てましょうということは学習内容のメインにはなっていません。

(※)学校教育法施行規則の規定に基づいて文部科学大臣より告示。学習内容、学習方法などが示されている。

『英語ノート』って何?内容は?

M:教科書はあるんですか?鈴木先生:『英語ノート1』『英語ノート2』というのがありますが、これはあくまで教材として小学校の先生方が参考に使うものです。たとえば『英語ノート1』には「さまざまな言語による挨拶をしよう」、「さまざまな言葉の文字を覚えよう」といった文化を紹介したり、韓

国語や中国語の1・2・3を発音し、日本語との関連に気付きを与えたりというのがあります。また、ヒトデは漢字で「海星」と書きますが、英語では「Starfish」と書きます。どちらもヒトデの形が由来しているのが分かりますよ。さらに『英語ノート2』では国旗の由来、世界の物語などを知り、外国語に親しんでいく活動内容となっています。

「aaaaaa」とアルファベットを10回書くとか、そういった書き取りの学習ではありません。エイドリアン先生:たとえば『英語ノート1』には「I like~」「I don't like~」「I want~」といった基本的な表



現も入っています。自分の意見を話したり、説明したりという内容は含まれていません。板垣教授:そうですね。『英語ノート1・2』で言いますと約300語の単語が含まれています。appleやdogなどカタカナでも書ける単語が多く含まれています。ですから読み、書きを勉強するのではなく、体験として、耳で聞いて外国語に慣れ親しむ内容となっています。

